



GoTo きいばす

- きいばすの感染防止対策について
- ・職員はマスクを着用し対応いたします。
 - ・共用部分の消毒及び換気を4回/日以上実施します。
 - ・乗物体験、組立ブロック体験は都度消毒して利用できます。
 - ・組立ブロック体験は、土日に関り1日5組限定での開催となります。
 - ・VR体験、触れる地球、キッズルームは利用を制限しています。
 - ・原則、館内での食事は禁止とします。



令和3年8月 vol.10

7月の来館者数と太陽光発電量

818人 (累計 88,801人)

北ソーラー：固定 6,235kWh

南ソーラー：追尾 6,757kWh



出力100kW (1基50kW)

一般家庭で使用する電力量300kWh/月として、約43軒分の電力量を発電しました。



走る速度と体重から、自分の運動エネルギーを測定しました。

7月30日にポイイスカウト大和高田第7回奈良良息56名が来館し、子どもから大人まで年齢に応じたメニューを体験しました。



紫外線測定器

↑影と日なたで、紫外線強度の違いを学びました。(中学年)

(低学年) ゴムのパワーを利用したびっくり箱をつくりました。↓



講座の様子はYouTube「きいばすチャンネル」でご覧いただけます。

7月22日～25日に夏休みの自由研究を支援する講座を開催し、町内外の小学生と保護者64名が参加しました。



7月のトピック



熱気球

今回は小2の「熱気球をあげよう」をご紹介します。

このプログラムでは太陽の光には「ものをあたためる」働きがあることを学びます。

熱気球を太陽の光にあてると、中の空気があたためられてふくらんでいき、そして、浮き上がります。

このことから、あたためた空気は上に昇ることを学びます。

熱気球が上昇すると、子どもたちの歓声がきいばすに響き渡ります。



体験 プログラム



一台で約2.5升のお米を炊くことができます。(10合/升)

きいばすには福井県由来の偉人由利公正が考案した「三岡へっつい」と呼ばれるかまどがあるんだ。「はじめチョロチョロ中ばっぱ」と火加減を弱くしたり強くしたりすることで、おいしい御飯が炊けるよ。

きいばすでは、かまどを使うためには山で木を切って、薪(まき) 割りをして1年近く乾燥させること、薪を燃やしたときの煙や煤(すす) が人体に悪影響を与えることなどを紹介しながら、電気やガスで炊飯するように変化した理由を学べるんだ。

休日には、10人以上でかまど焚きの体験をすることができるよう。(要予約、90分/回、500円/人)

かまど焚きの体験に興味がある方は、きいばすへGO!



かまど焚きの御飯

